



# 新年明けましておめでと〜ございます

住 職 成 田 大 航

日本に於けるコロナ四年目に入りました。パンデミックの終息というすつきりとした形ではありませんが、それなりに日常は戻ってきました。しかしながら、コロナ前にはあった伝統的な行事や習慣は、スタスタに切り裂かれたままの状態です。地域の伝統行事はもちろぬ、福知山のような大都市でも、お葬式を家族葬という葬儀プランで執り行われる事があたりまえになってきました。長年お付き合ひしてきた近所の方の見送りも出来ないという事は悲しい事であり、二十年、三十年経った時に、これで良かったねと言える社会になっているかどうか、そこが大事なのではないでしょうか。

本堂大屋根大改修につきましては、檀信徒の皆様のご賛同を賜り、当初の計画通り進める事が出来ることとなりました。誠に感謝に堪えない次第でございます。昨十一月二十四日大安の佳き日に、施工業者大下工務店との本契約を結ぶところまで進める事が出来ました。これひとえに檀信徒各位の深信なる菩提寺外護のお力と感謝申し上げます。

コロナ禍による世界的な混乱に始まり、ロシアによるウクライナ侵攻、エネルギー危機、円安による物価高騰と悪い条件が次々と襲ってくる中、土師区内のお檀家の皆様に限らず市内・市外問わずにご協力を賜りましたことは、寺史に残しておかねばならない尊い浄行と感じ入っております。しかしながら、改修工事には様々な付帯工事が必要となって参ります。ご縁のある方があれば、瓦志納や畳替えやふすまの張り替えなどの個別の仏具寄付などを引き続き募集しております。

ので、ご事情に応じてご協力頂ければ幸いです。

## 善良で篤信の国

個人的な回想になってしまいましたが、私自身はお寺の生まれではなく、不思議なご縁をもってお坊さんになり、不思議なご縁をもってこのお寺の住職となったもので、有り難い事に得度の師匠からは何の制約も無く好きな事をずっとさせて頂いておりました。大学を休学して自転車で日本を巡った事もありましたし、師匠の実兄が開創したアメリカの禅センターで生活したり、タイ・カンボジアには三年半活動した後タイのお寺で出家をし、永平寺・總持寺での修行と、広く薄く仏教を見聞させていただきました。気がつけば住職歴四十年も間近の古参でありながら、その中身の無さに辟易とすること度々であります。しかしながら、若い頃の経験上、常に他の国の仏教と比較する癖がついてしまっていて、アメリカ

の禅の良いところはここだとか、タイのお寺ではこうしてたなとか、何年経ってもその景色がスクリーンのように目の前に広がっております。「日本のお坊さんは」という言い方は不思議に聞こえるかも知れませんが、今は外国籍の僧侶が日本の修行道場の住職を務める時代となって、仏教、特に「禅」は既に国際化しています。話が広がってしまいました。「日本のお寺」の「日本のお坊さん」を長く務めている者としても思ふのは、日本のお寺とは、善良で信心深いお檀家によって支えられているという事実であります。喜捨をし、お寺の護持に努めて頂いておられるのはお檀家の方であるにもかかわらず、「お世話になっております」と感謝の言葉を頂く事多々であります。もし、これから日本の仏教が廃れてお寺が衰退する時代が来るとするならば、それは、善良で信心の深い篤信のお檀家の不在を意味することであり、篤信の人を育てる努力を怠った「日本のお寺」の責任であると預言したいと思います。

# 謹賀新年



代表総代 伊 東 高 志

新年明けましておめでと〜ございます。

令和五年の新年を迎え、檀信徒の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は円覚寺護持会には大変なご理解、ご協

力又ご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年も年初から新型コロナウイルスの第六波に始まり第七波と続き、未だ収束には至っていないどころか

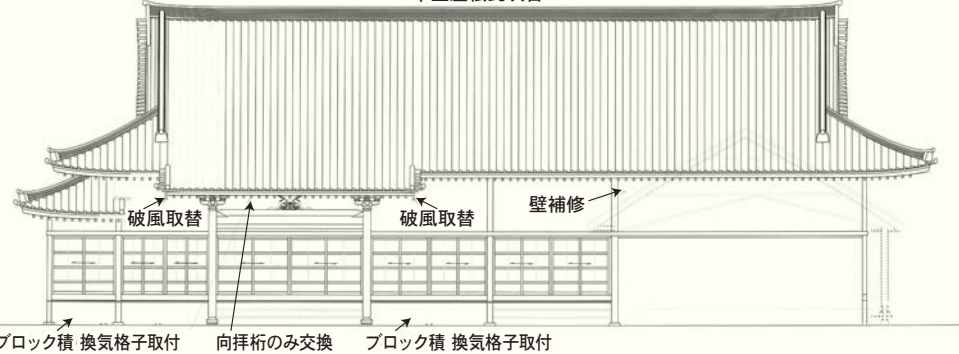
年末に来てまた第八波の様相を呈して来たようです。ただ数回に及ぶワクチン接種や免疫等により多少なり以前のコロナとは少し違った推移を辿りつつあるようで、これから我々人類はコロナと共存生活（ウィズコロナ）の状態になることを強いられるかも知れません。ただこの間活動を制約されておりました社会生活も、人々の行事活動等が少しづつ制約緩和されるようになり、私たちが関係する曹洞宗でも昨年七月の本山研修旅行や十月の地方研修旅行、また各会議等も徐々に開催されるなど若干明るい兆しも見えてきた様です。今年こそコロナが収束して社会全体が以前の状態に戻ることを期待したい所です。

ところで、昨年の大きな出来事として、海外ではまずウクライナにおける戦争ですが、これは現在の社会では考えられないような出来事であり、一人の権威主義者の前世紀的な考え方や、やり方でこのようなことがまかり通る事態になったことは誠に残念だし遺憾と言わざるを得ません。この紛争の為に多くの人々が不幸になり、世界全体に原油やガスなどの化石資源、木材資源等の高騰の原因を作り出し、所謂インフレ経済を各国に齎しました。

一方国内では経済、金融面で各国との金利格差の広がりや為数十年ぶりの円安傾向の不安定化が輸入資源や製品等の物価の高騰をもたらしました。そんな混沌とした一年でありましたが、護持会としても大きな決断を強いられた年でもありました。前述のようにコロナや国内外の状況変化に対して少し様子見をしていた本堂の改修工事計画について、これ以上の先延ばしは返ってプラス要因にはならないとの判断

を、早速十月には檀家の皆様にはご無理を言っ

本堂大屋根大改修完成予定図



て工事代の志納金予定意思確認をお願いを申し上げました。お陰様で皆様の本当に暖かい貴重な御意思を頂きまして、ほぼ想定していた金額（約七、〇〇〇万円）を確保することが出来る見通しとなり、役員一同各檀家様の深いご理解、ご協力を頂いたことに改めて心より感謝を申し上げます。次第であります。ただ前述しましたように今年になってからの諸物価の高騰により、昨年十月の再見積もりでは令和二年の約十二パーセント近いアップとなつてしましました。しかしこの時節、他の業種との比較しまして物価や原材料等の上り方と相応のアップ率であり、又特に高騰の著しい建築材料を考慮にいれてもやむを得ないとの判断に至りました。すなわち当初本堂工約六、五〇〇万円が約七、二五〇万円になり、又追加工事（本堂内の一室を事務所に変更）として約八〇〇万円が必要とな

り合計で約八、〇五〇万円の工事となりました。今の段階では少し不足していますが、不足分については檀家様以外の寄付金や府の補助金、護持会特別会計などで補充をして行く予定であります。そこで再度細かな点を打ち合わせて調整の上で、昨年十一月二十四日に施工業者の大下工務店と契約させて頂きました。順調に行けば令和六年度には工事を完了の予定ですが、工事中は檀家の皆様には何かとご不便をお掛け致しますがご理解のほどよろしくお願い申し上げます。さて、もう一つ報告になりますが、近年檀家様の中でも仏教（宗教）に対して斬新的な考えや、宗教自体の関心に希薄さを持つ若い世代への世代交代が多くなりつつあります。そんな中でお墓に対する考え方も変わってきており、近年は旧態の広くて大きな墓地ではなくもつとコンパクトな墓地が好まれている傾向にあるようです。そこで円覚寺としても将来を先取りして発想を変え、そのような『墓苑』を一概所作しておく必要もあろうかと考えまして、丁度土師観音の西の無縁墓地の一角に『土師かんのん墓苑』を造成しました。全部で二十四基ありますが、その中に一基サンプルを作りましたので皆様方も一度見ていただいで親戚や身内の方々にも宣伝をして頂きたく思っています。又一般の方々にも広く知って貰う為にパンフレット等も作って宣伝等して行く予定にしております。以上色々とお知らせが、報告やらお願いやら長々と書きましたが、令和五年も忙しい年になりそうです。年始に当たって檀信徒各位の今年一年のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶に代えさせていただきます。

合 掌



ワットバクナム寺での得度式



戦争中には土師一六〇戸ほどの小さな村から、七十人以上の若者がお国のために戦い異国の土となりました。戦後すぐに戦没者の慰霊祭が始まり、自治会の協力もあって今日まで続いておりましたが、遺族の高齢化という事情もあり、慰霊祭としては最後のお勤めということとなりました。



### お盆のお飾り

昨年のお盆の棚経の折、あまり綺麗にお飾りをされていたので、お手本に写真撮らせていただきました。



### 本堂大屋根大改修事業本契約

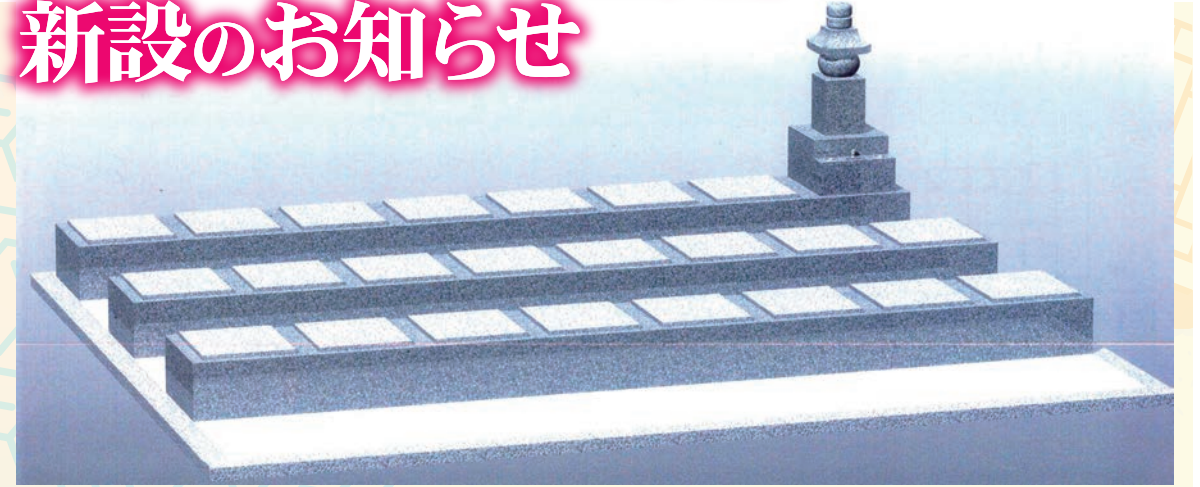
令和四年十一月二十四日大安の佳き日に、施工業者大下工務店との本契約を結ぶ事が出来ました。



### お寺の野良猫

昨年四月のまだ寒さの残る頃、お寺の物置に野良猫が子猫を産んでピーピーと啼いていました。  
寝ずの世話をして、五匹のうち二匹が生き残り、引き取り手を探しているうちに可愛くなってお寺に居着いてしまいました。  
今では住職以上に大切にされております。

# 土師「かんのん墓苑」新設のお知らせ



この度、土師墓地内に新たに「土師かんのん墓苑」を新設することとなりました。

### 【土師かんのん墓苑とは】

円覚寺墓地管理委員会が管理する土師墓地内に新設された集合型墓地であり、購入者は円覚寺檀家で有無しを問わず、どなたでも入る事が出来ます。

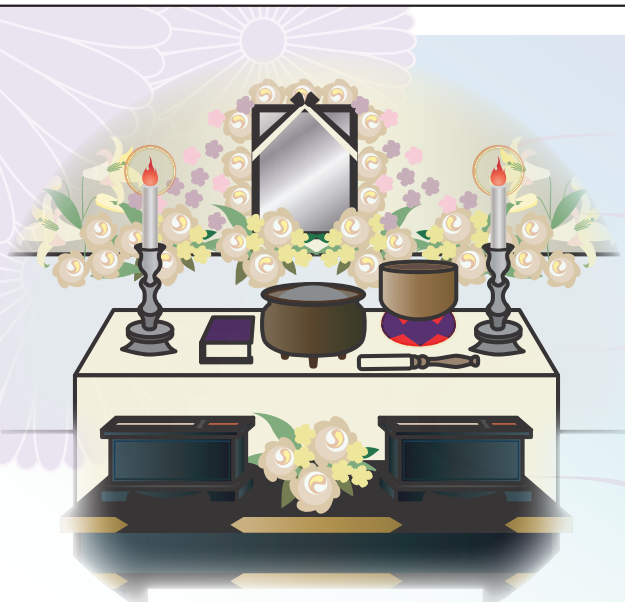
### 【建立趣旨】

近年の急速な時代の変化に伴って、お墓のあり方も大きく変化してきました。地区内におられながら特定の菩提寺を持たれない方、永代供養を希望される方などそれぞれの事情に応じて寺院がさまざまなお墓の形態を提案する時代となりました。今般、円覚寺の墓地内に一角を設け、檀家の有無にかかわらず、どなたでも、比較的安価にお墓を建てて頂ける墓苑を造ることとなりました。趣旨をご理解頂き、ご希望の方には広く知って頂きたくご案内いたします。具体的には、土師墓地中央の「土師観音」の正面に位置します。

### 【土師かんのん墓苑建墓志納金】

- 一、墓地永代使用料（一聖地）  
金二〇万円
- 二、墓石代金  
（石の種別によって違いがあります）  
金三十万円〜五十万円
- 三、墓地管理料  
年間二千元  
※水道使用や墓地管理費に充当されます

# 現代「お葬式」考



今はテレビをつければ三十分に戻らぬくらいは、「家族葬なら信頼出来る△△△葬儀社へ」「永代供養なら〇〇寺へ」というコマースャルが流れる時代となりました。野辺の送りと呼ばれる、亡き人を吊い、縁故者が寄り集って葬場までお送りする葬送のしきたりは無くなり、葬儀のほとんどを葬儀社におまかせして家族のみで送るといふ事が珍しくなくなりました。

お檀家が亡くなられたというご連絡を頂いた場合、枕経をお勤めしてからご葬儀についての打合せをさせて頂くのですが、ひと昔前でしたら、村の古老が一切を取り仕切っておられて何の説明もする必要はありませんでした。ところが、今ではお家の方だけで全てしなくてはならず、しかも仏教的な言葉自体を知らないというケースが多く、一から説明する必要があり、お葬儀とはどういうもので、亡き人を送る大事な儀式なんですよという説明をいたします。更には儀式法要として、鼓鉢(くはつ)という鐘や太鼓などを鳴らしたり、木魚を打つたりする役僧さんはどうされますか?とお伺いしても、初めて聞く言葉

に比べようがなく、お坊さんのお経があればよいくらいの知識しかないというのが実情であります。特に村香典というような助け合いの習慣が無くなった為に、葬儀社に支払う「料金」が負担になって、葬儀という本来の「供養」が出来ないお家の方がしばしば見受けられるようになってまいりました。

経済的な事情のある方に、何とか「葬儀費用」の負担を減らして、慇懃に故人を送る「供養」が出来ないものかと考える中で、①地元となるべく葬儀費用のかからない業者さんをご紹介したり ②通夜については自宅でもごし、葬儀のみ、例えばお寺の本堂か脇堂を使って執り行う、というような方法がとれないものかと思案しております。

近年の急速な時代の変化の中で、本来の意味を失わないやり方を模索するというのは大事なことではないかと思っております。



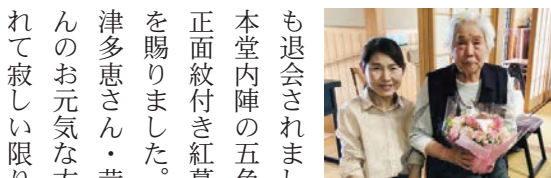
## 元永平寺副貫主 樋崎一光老師ご染筆 南無釈迦牟尼佛

(東京都伊東洋子様寄贈)



樋崎老師は一九一八(大正七)年に広島県向島町で出生。昭和二十一年若干二十八歳で瑞應寺住職。また、宗門の重鎮として曹洞宗大本山永平寺の後堂、副貫首という要職を務められ、海外にもその禅風を慕われ、正伝の禅を多くの人々に唱導されました。

また老師は筆道本源入木道を継承、塵気を離れた高潔な筆痕で多くの道俗を魅了し、曹洞の三筆として名を知られています。誰もが次の禅師として期待する中、ご病気の為、惜しまれて一九九六(平成八)年、七十八歳にて遷化されました。



### 芦田愛子さん退会

梅花講員として三十四年の長きにわたり、共に行事を努めて頂いた、芦田愛子さんが惜しくも退会されました。同時にご主人の供養として正面紋付き紅幕のご寄進を賜りました。近年芦田津多恵さん・芦田紘子さんのお元気な方が早世されて寂しい限りです。



### 墓地管理者より

現在、土師墓地

には幾つかのゴミ集積所がありますが、余りに便利な為か違法投棄が絶えません。七月には古タイヤの投棄があり、さすがに警察に来て頂き被害届を出させて頂きました。

墓地所有者の方に つきましても、生花ゴミなどの燃えるゴミに限らせて頂いておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

